

やまなし

2019.9.13

vol.17

no. 1

contents

- 2 図書館の思い出
- 4 図書館利用者の声
- 5 学生にすすめる本
- 6 図書館統計
- 7 図書館トピックス
 - 山梨大学古本募金
 - 電子ブック試読サービス
- 今後のイベント紹介
 - 近代文学文庫講演会 絵画展示 ミニコンサート〔本館〕
- 8 「生と死のコーナー」講演会 〔分館〕ほか



図書館の思い出

にしくぼ こうじ
山梨大学附属図書館 館長 西久保 浩二

本年四月より図書館長を拝命しました。二年間、よろしくお願いいたします。

私は生命環境学部、地域社会システム学科に所属し、経営学分野でマーケティングや人材戦略論を担当してまいりました。図書館には利用者として長く親しんでまいりましたが、運營業務は未経験で日々、驚きの連続です。遠い昔の新入社員の頃のような新鮮な感覚を楽しんでおります。

この新職務に就いてみて改めて、私にとっての図書館という存在、その時空間の記憶を何度か辿ってみるようになりました。

やはり、原点は小学校の図書館でしょうか。当時のクラスには係が色々ありました。学級委員がリーダー役で、これは投票で選ばれていましたが、その他は確か立候補制でした。黒板係(今の学生諸君にわかるかなあ、先生の板書を消してきれいにする係です)、生き物係、給食係、体育係などあって、そのなかに人気の係として図書係がありましたね。だいたいクラスで成績が良さそうな本好きの友達が就任していましたね。私は、ザリガニ取りやミノムシにハマっておりましたので、生き物係専門でしたが、図書係に何やら羨望を感じていた気がします。係の友達は学級文庫の整理や図書室利用後の後片付け、人気図書ランキングなどの掲示などを真面目にやってくれていました。本が大好きな子供にとっては魅力的な係だったでしょうし、図書館と教室を本で繋ぐ大切な役割だったと思います。学級文庫で毎月新しい本が並んでいるのをみて、色々な本に出合えた気がしますし、友達たちが自分の知らない様々な世界に興味を持っていることが刺激になりました。まさに、本を通じて新しい知の世界に触れることができたわけですね。

中学、高校時代は、やはり受験戦争のなかで勉強に集中する場、としての図書館だったように記憶しています。このときは学校図書館ではなく、地域のいくつかの公立図書館に通っていました。特に、夏休み、冬休みなどの長期休暇期間には毎日通っていました。自宅で勉強すれば、往復の移動時間も節約できて勉強の効率としてはよかったですはずですが、なぜか図書館ばかり利用していた記憶があります。夏休みには明確な理由がありました。自宅にエアコンが無かったか、もしくは来客時に使用が限定されていたためか、涼しさを求めて図書館に開館時から閉館まで籠っていました。他の長期休暇にも共通する、もうひとつの理由は、休み中に友達と会え





るからでした。やはり受験勉強は孤独と戦う辛いものでしたから、戦友たちと会えることで、頑張りが続けたことができたように思います。

この受験勉強で公立図書館に通っていた頃には、予期せぬ副産物もありました。当然公立図書館には、受験生だけでなく、老若男女、多くの市民の方が訪れます。朝からずっと新聞を読みふけているおじいさん、絵本を楽しむお母さんと幼児、音楽を聴く若者、何やら調べものでノートに手書き複写してすぐに帰る多忙そうなビジネスマン、等々。図書館という共通の時空間のなかで、同じ大机を共有して出会うことができました。何か、リアルな社会人に、実社会の一端に触れたような気がしました。受験戦争の先にある新しい社会が、訳もなく魅力的に見えた気がします。ですから、図書館は受験勉強の場ではありましたが、その辛さを人と出会うことで癒す場でもあったのですね。



大学の図書館は入学式の直ぐ後に、はじめて入館しましたが、当時は威厳のような何かに圧倒された記憶が残っています。その板廊下に塗られたニスと、見上げるような膨大な洋書棚からの埃や黴のような強い匂い、そして空間の薄暗さから印象づけられた感覚だったのでしょうか。それまでの学校とは異なる大学という知の世界を強く感じたのが大学図書館でした。わが山梨大学の今のようなフレンドリーで、カジュアルな印象とはほど遠いものでしたね。受験までの限られた、決められた狭い勉強ではない、多様な、無限の知の世界への入口だったのでしょうか。それでも定期試験やレポートの対策に迫られて図書館を利用するうちに、最初の畏怖のような感覚は鈍ってしまいました。あの印象をもう少し大切にしていれば、もっと意義ある大学生活となったような、惜しい気がします。

卒業後、会社人となってからも私は図書館をよく利用しました。ひとつにはビジネス関連の資格試験の受験のためです。平日は業務多忙で深夜帰宅の日常でしたから、土日を中心に近くの公立図書館によく通っておりました。既に家族もいましたので、昼休みの時間だけ子供達と近くのレストランで食事をしていて、「なぜ、父さんは休日も昼間、家にいないのか」と不思議がっていました。そのうち子供も図書館の絵本コーナーが気に入ったようで、閉館後、いっしょに帰るようになったことが懐かしい、嬉しい記憶です。

さて、長々と私の図書館とのつきあいの平凡な歴史を書いてしまいました。しかし今、改めて、図書館という存在を振り返ってみて、それが実に貴重な時間、空間であったものと確信できました。本を通じて多様な、新しい知の世界と出会う場でありました。今、研究者、教育者となった大きな契機が図書館だったようにも思えます。また、そこで友人やそれまで見知らぬ人々との出会い、触れ合いの場でもあったようです。それが居心地のよい自分の大切な居場所だったのだと思います。



旅人とオアシス

こむら よしかず
医学部 医学科 6年 **小村 慶和**

私は研究者になりたい学生です。先行文献を読んでいてわからないことがあるときに図書館を利用します。本を借りて勉強します。あるいは、その分野の本が置いてある本棚の前にいって目に付いた本に目を通し、また元の場所に戻します。これを数回繰り返して研究室に戻ります。図書館は同じ分野の本がまとまって置いてあるので便利です。新しいことを勉強するときにも図書館に行きますが、この場合は図書館に目的の本がないときがあります。そんな時には図書館にリクエストして図書を購入してもらっています。おかげで、世界の大学で学ばれていることを問題なく勉強できています。

図書館のおかげで、私は必要なときに知識を増やすことができます。私はそんな図書館を「旅人にとってのオアシス」のような場所だと感じています。旅人はその旅の途中でオアシスに立ち寄っていました。その旅を続けるために必要となる水や食料を補給しなくてはならなかったからです。私にとっての研究もその旅と似ています。研究を完遂するためにはたくさんの知識が必要で、それを途中で取得していかななくてはなりません。私のような見習いの場合には特にそうです。そんなときに知識を与えてくれる場所が図書館です。図書館のおかげで、私は研究を続けることができます。その存在はまるで旅人にとってのオアシスです。

旅人にとってオアシスが不可欠のように、研究する学生にとって図書館は不可欠な存在だと思います。求められる図書館の機能は多様化していき、運営がますます大変になっていくことと思います。そんな中であっても、これまでのように学生を支えるような図書館であってもらえたら嬉しいです。



知識を深める場所

大学院医工農学総合教育部
コンピュータ理工学コース修士 2年
みしま たいしん
三島 大進

私は大学生の頃、人工知能やプログラミングなどの知識について、ほとんど図書館を利用しませんでした。なぜなら、インターネットで検索した方が素早く、大量の情報を得ることができたからです。実際に、「人工知能」と検索するだけで数千万件の記事が存在します。学年が上がり知識を深めていくと、検索した大量の情報には間違った情報や断片的な情報が記載されていることに気づきました。そのため、より知識を深めるためにインターネットを利用して、目的の情報を探すには手間がかかるようになりました。

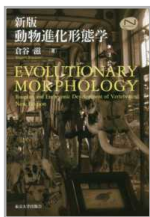
大学院生になり、趣味でアプリ開発の技術書を図書館で借りました。そこには、既存の情報や関連する細かい情報が記載されていました。インターネットで目的の情報を探すより、本の流れに沿って目的の情報を探すが、自身の理解と幅広い知識の獲得にとっても有意義だと気付きました。それ以来、研究でも論文や技術書を図書館で借りています。本はインターネットと比べると情報は少ないです。ですが、本には出版社や著者が明記されているため、情報の正確性や信憑性が保証されています。さらに、目的の情報に関連する幅広い情報も得ることができます。

上記では、本の良いところを述べました。ですが、目的の本が図書館にない場合があります。そんなときに、私は「学生希望図書リクエスト」や「他大学から本の取り寄せ」を利用しています。学生には、高価な本も希望を出せば読むことができ、とても助かっています。皆さんも、インターネットだけでなく図書館を利用して知識を深めてみてはどうでしょうか？

● 医学分館 2F 開架書架(第三) 487/DOU
● 本 館 2F 一般書架 487

新版 動物進化形態学

倉谷 滋著 東京大学出版会



脊椎動物の解剖学，特に頭部の構造は非常に複雑で，学ぶのに苦労する分野である。医学生にとって咽頭弓やブラコード，ロンボメアなどの概念は，理解する対象というよりは，丸暗記する事項となりがちであろう。この難解な頭部の解剖学に対し，系統発生と個体発生の観点から明快な解釈を与えてくれるのが，本書である。本書は，頭部が体幹の延長なのか否かという問題を中心に据え，系統発生を脊索動物から辿り，また科学史をゲーテの頭蓋椎骨説まで遡る。ゲーテの創始した形態学Morphologieが，反復説や進化論と絡み合い，現代の進化発生学に昇華していく様子は，実にドラマチックである。

本書では頭部分節説の検証に留まらず，解剖学における様々な論点に対し，最新の発生学の知見に基づく議論を展開している。例えば，副神経の分類に関する論考

(p215, 表4-1)では，この神経が頭部と体幹の境界に存在するが故に，そのidentityが曖昧になっていることを分子と形態の双方から見事に解き明かしている。

本書のもう一つの楽しみ方は2004年の旧版との読み比べである。わずか10数年の間に発表された新知見が進化発生学をガラリと変えた様を目の当たりにすることができる。軸上epaxial/軸下hypaxial筋という分類を補完するべく提唱されたPrimaxial/abaxial領域という概念(p195, 図4-56)は，肋間筋と体肢筋の分化を明確にした。また，第10章として新たに加えられた円口類の形態学は，無顎類と顎口類との間に安易な相同性を設定することへ警鐘を鳴らしている。

本書は解剖学の入門書とは対極の位置にあるが，発生学の一般教科書では満足できなくなった学生にとって，理解のレベルを大きく引き上げてくれる貴重な一冊である。



医学部解剖学講座構造生物学教室

おだ としゆき

小田 賢幸 教授



● 本 館 2F 一般書架 778.21

日中映画交流史

劉 文兵著 東京大学出版会



読者の皆様は1980年代の中国における高倉健の人気をご存じだろうか。

本書は1920年代から近年までの日本と中国の映画交流史である。テレビが普及し人々の往来が便利になった今日，国境を越えた文化交流の媒体はテレビドラマやアニメーション，アイドルやアーティストのコンサートなど多様化しつつある。しかし20世紀の日中両国の文化交流において映画の影響力は絶大であり，映画史を紐解くことで，両国民がいかに互いに関心を向けあってきたか，中国の人々が映画を通して日本から何を感じ取ったのかを知ることができる。それと同時に，膨大な歴史資料に基づく本書の記述は，時としてパターン化した思考や内向きな態度が相互理解の障害になることを私たちに教えてくれてもいる。

中国における日本映画の上映は20世紀初頭から行われていたが，日中国交正常化後まもなく起こった日本映画ブームの中心的存在は高倉健であった。私たちは日本で人気の高い映画は中国でも人気を得る，両国民の感性は近似している，と受け止めるかもしれないが，本書はそのような理解を否定する。中国には中国の事情が有り，日本とは別の事情で高倉健ブームが巻き起こったのである。

今日では中国の映画で見た北海道の美しい風景をめぐって来日する中国人観光客も多い。本書は，文化交流で必要とされる「〈他者〉に対する冷静な眼差し」のありかたを，映画史の記述を通して私たちに伝えている。



教育学部言語教育講座

まちだ しげる

町田 茂 准教授





図書館統計 平成30年度（2018）

1 図書館利用統計

(1) 開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数(人)		
		学内者	学外者	合計
本館	284日	130,076	1,432	131,508
分館	286日	142,405	338	142,743

(2) 館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査 件数
	学生	教職員	学外者	合計	
本館	20,716	3,212	681	24,609	2,086
分館	11,971	2,638	276	14,885	3,603

(3) 相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	157	197	771	611
分館	80	68	1,534	1,329
合計	237	265	2,305	1,940

(4) 子ども図書室

開館日数	72日
入室者数	419人
貸出券発行人数	31人
蔵書冊数	4,685冊
貸出冊数	398冊

2 図書館蔵書統計

(1) 図書・雑誌蔵書数（H31.3.31現在）

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	338,623	124,384	463,007	7,494	2,464	9,958
分館	55,562	41,770	97,332	1,965	1,334	3,299
合計	394,185	166,154	560,339	9,459	3,798	13,257

(2) 図書・雑誌受入数（H30年度）

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	3,198	81	3,279	915	112	1,027
分館	1,383	34	1,417	446	51	497
合計	4,581	115	4,696	1,361	163	1,524

山梨大学古本募金

平成30年4月から開始した山梨大学古本募金です。

皆様の本棚や、物置などにある、これから読むこともない本やCD、ゲームソフトなどを段ボール箱に5冊以上入れて電話をすれば業者が自宅まで取りに来て、嵯峨野（運営会社）に運び込み、査定をした金額が山梨大学附属図書館に寄附されるものです。

平成30年度のご寄付の合計は、皆様のご協力により121,200円となりました。ありがとうございました。

内訳は、個人42,764円、本館（除却本）76,412円、分館（除却本）2,024円です。

このところ、徐々に浸透してきているせいか、昨年比で4倍ほど個人の寄附が増えてきております。

さらに、広報を進め、卒業・修了生、在学生、教職員の方に頭の隅にいつも置いてもらい、不要になった本などを寄附いただけるようにしたいと思っています。

なお、ご寄付いただける本は、ISBNがついているものに限らせていただきます。現在（令和元年8月7日）、ご寄付いただいたお金は未使用ですが、使用しましたら皆様にご報告させていただきます。

e 電子ブックの試読を行いました

6月3日から8月2日の間、電子ブックの試読サービスを行いました。

今回はMaruzen eBook Libraryの約5万冊が読み放題、リクエストも画面上から簡単に出来るというもの。たくさんの皆様の利用、リクエストをいただきました。

この2か月で新たに購入した電子ブックは26タイトル。OPAC検索からもアクセスできますので、ぜひご利用ください。

図書館ではこれからも試読サービスを行います。お楽しみに！



今後のイベント紹介

山梨大学附属図書館近代文学文庫関連行事

入場無料

予約不要

講演会 太宰治『お伽草紙』と戦争 —「私の桃太郎」が書けない物語作家

講師：小澤 純氏（慶応義塾志木高等学校教諭）

日時：令和元年11月9日（土）15:00～17:00

場所：山梨大学附属図書館 本館1階 ラーニングコモンズ

本館では、近代文学文庫関連行事として、慶応義塾志木高等学校の小澤純氏を講師にお招きし、講演会「太宰治『お伽草紙』と戦争—「私の桃太郎」が書けない物語作家」を開催します。また、本館2階第一展示室において、近代文学文庫に収蔵されている明治・大正時代を中心とした作品の展示も行いますので、ご興味のある方はお気軽にご来館ください。

企画展示

生誕110年記念

太宰治と戦後出版

会期 令和元年10月29日（火）

～ 令和2年9月（予定）

場所 第一展示室

絵画展示 -井坂研究室の試み-

10月15日（火）～10月25日（金）の期間、本館2階第二展示室において、本学教員及び学生による作品（絵画）展示を実施します。

入場無料

附属図書館企画 ミニコンサート

附属図書館本館では冬の企画として、12月18日（水）に附属図書館1Fラーニングコモンズにおいて、日頃、本学音楽教員の指導を受けている学生によるミニコンサートを開催します。

入場無料

★ 学内外のどなたでもご来場いただけますので、皆様お誘い合わせの上、お気軽にお越しください。



山梨大学附属図書館医学分館「生と死のコーナー」関連行事 講演会

入場無料

予約不要

生と死をつなぐケア

-コントロールできないものに寄り添うこと

講師：田村 恵子先生

(京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 教授

がん看護専門看護師)



日時：令和元年10月10日(木) 18:00~19:30

場所：山梨大学 医学部キャンパス(中央市) 臨床講義棟臨床大講堂

医学分館では、令和元年度「生と死のコーナー」関連行事として、京都大学大学院医学研究科教授の田村恵子先生を講師にお招きし、講演会を開催します。

田村先生は、わが国における末期がんの方々に対するホスピスケア(緩和ケア)において、約6,000名を超える看取りに向き合っており、さらに、地域で生活するがん患者や家族ががんをきっかけとして語り合い、生きる知恵や支え合う力を育む市民活動「ともいき京都」を開始し、ケア的コミュニティづくりを目指していらっしゃいます。

現場で培ってきた経験を通じた講演を聴くことが出来る貴重な機会となりますので、医療関係者の方、一般の方問わず、関心のある方は是非、ご参加ください。

2019年度山梨県・山梨大学連携事業

「子どもの読書オープンカレッジ」のご案内

* 第3回 10月24日(木)

東京都葛飾区立中央図書館司書 井上直子氏による講演

概要：ヤングアダルトのための本や選書の仕方などについて学ぶ

* 第4回 12月5日(木)

甘草屋敷子ども図書館「絵本くらぶ」 塚田純子氏による講演

概要：山梨県のわらべ歌について実演を通して学ぶ

* 第5回 2月6日(木)

絵本作家 西村繁男氏による講演

概要：つくり手の作品にこめた思いについてお話をうかがい、子どもの本についての理解を深める

申込必要



【お申し込み・お問い合わせ】

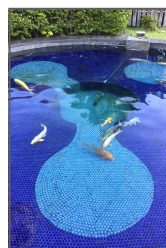
山梨県立図書館サービス課 子ども読書推進担当

〒400-0024 甲府市北口二丁目8-1 TEL 055-255-1040(代) FAX 055-255-1042

主催：山梨県立図書館・山梨大学附属図書館子ども図書室

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<http://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066(情報サービスグループ)、医学分館 Tel:055-273-9357(医学情報グループ)にお問い合わせください。



● 表紙：池と鯉
場所：甲府キャンパス(図書館職員 撮影)

山梨大学附属図書館報

「やまなし」

第17巻第1号

2019年9月13日 発行

編集：館報編集委員会

発行：山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063